

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(志摩市)の概要

9月14日(土)に志摩市の三重外湾漁協志摩支所志島出張所で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「畔志賀(あしか)漁師塾」の皆さん9名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

Q なぜ志摩市で漁師になったのか、また、志摩市に住んでみた感想はどうか？

- 海が好きで、魚が獲れたときの喜びを感じたかった。志摩市の他にも漁師として受け入れてくれるところはたくさんあるが、多くは人に雇われる形で漁師になる。サラリーマンのような漁師はめざすところではなかった。ここでは独立して仕事ができるので、獲れたものを売っていくらになったというのが実感できる。
- 志摩市は最高だと思う。地元の方が自分たちを受け入れてくれる姿勢があって、手取り足取り教えてくれるし、助けてくれる。
- 漁師塾では、みんなが優しくしてくれるので楽しい。
- 海女がしくて伊豆にある組合に尋ねたが、5年以上住んで会議で了解が得られればという条件があると言われた。その後にテレビで紹介されていた三重県庁へ連絡

したら、すぐにでも潜れるということになった。

ここに住んでみると住民の人もよくしてくれるし、居心地がいい。

自分にできる仕事は何かと考えたときに、インターネットで海女さんを見てやりたいと思った。体一つでできる仕事で、ここには海水浴場もあり、子どもにとっての環境もいい。不安があるのは産婦人科がないことだけである。

前から働いていた会社を辞めて、農家か漁師になろうと決めていた。農家は土地も必要になるので、まずは漁師体験を申し込んだ。

Q 活動を通じて良かったことや、やりがいと感ずること、大変なことは何か？

志摩に帰ってくるときに、伊勢道路で救急車と頻繁にすれ違う。これだけ救急車を見かけると本当に医療が足りているのか心配になる。

東京に新しく三重テラスができるが、他にも三重のアンテナショップをもっと出してほしい。

東京で食べるとかなり高額になるが、ここでは魚価とても安い。漁師が独立するための支援も必要だが、漁師として生活するために金銭面でもっと魅力的になるように、獲った魚の単価を上げるような取り組みもしてほしい。

今、お世話になっている世代の人たちは、地域に根ざして生活をしているが、一つ下の世代になると、この地域とどう関わっているのかが見えてこないの、今後、どうなっていくのか不安に思う。これ以上、人が外に行かないようにしていくことも必要だと思う。

漁師になりたいと思っても、現実的に道具などが必要となってくる。家族のことを考えると、最初の時点で断念する者もいる。いろんな方が協力してくれるが、他の地域と連携して、行政から多くの情報を広く教えてもらえると助かる。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

来年は水産業に力を入れていくので、漁師の方が生活していけるようなサポートを考える。

人が生きていくために、いろんな想いをもって生きている。生きるなら幸せに生きていきたいし、幸せにしてほしい。みんながチャレンジしているのをどうサポートしていくのか、どうすれば地域が保たれるのかを改めて考えさせられた。



【畔志賀漁師塾の皆さんとは】

過疎化や高齢化、後継者不足の課題に直面した漁業で、その課題を克服するために「人づくり」や地域に根ざした取組みを実践している皆さんです。

畔志賀漁師塾の「畔志賀(あしか)」は、「畔名(あぜな)」地区、「志島(しじま)」地区、「甲賀(こうか)」地区の一文字をとって名前を付けています。